

2024年8月6日（火）発表
愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
担当 芸術情報・広報課（小山・山元・井内）
電話 0561-76-2873（ダイヤルイン）
E-mail geijo@mail.aichi-fam-u.ac.jp

愛知県立芸術大学芸術講座

アーティストトーク「LIVING ROOM A LIVE TALK①」

愛知県立芸術大学社会連携センターでは、広く県民の皆さまに芸術文化に親しんでいただくために、「愛知芸大芸術講座」を多数開催いたしております。このたびは、芸術講座「LIVING ROOM A LIVE TALK①」を開催いたします。

愛知の鬼才であり、生活と文化を自然体で織り交ぜた活動を体現しているRAMZA氏、名古屋を拠点にカルチャートピックを発信している編集者の武部敬俊氏の活動について話を聞き（聞き手：安野太郎）、本学卒業後の学生が東海圏で活動を行っていく際のアイデア等を得るきっかけを作ります。

是非貴社にお取り上げいただきたく、お願い申し上げます。

【タイトル】 LIVING ROOM A LIVE TALK①

【日 程】 2024年10月16日（水）

【時 間】 18:00～19:30

【講 師】 RAMZA（作曲家／千種のダイニング「ZEZE」店主）

武部敬俊（編集者・デザイナー）

安野太郎（本学准教授）

【受講料】 無料（事前申込不要）

【会 場】 愛知県立芸術大学 音楽学部棟 1F ロビー

【問合せ】 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 TEL. 0561-76-2873

URL: <https://www.aichi-fam-u.ac.jp>

WED 16 OCT 2024

18:00-19:30

LIVING ROOM

ENTRANCE
FREE
WITH YOUR
VOICE

A LIVE
TALK
①

18:00-
OPENING
LIVE
RAMZA

RAMZA
TAKATOSHI TAKEBE
(LIVERARY)
AND
TARO YASUNO

対話
藝術生活

愛知県立芸術大学

愛知芸大
Fine Arts & Music
芸術講座

AICHI-FAM-U.AC.JP

LIVING ROOM

4年前に愛知に赴任してきた、本学准教授の安野太郎が愛知のローカルカルチャーについて学ぶべく、日々の活動（徘徊？）の途上で出会った愛知のカルチャーシーンの要人に、愛知の生活、文化、活動について話を聞き、大学卒業後も愛知県を拠点に活動していくかもしれない未来を担う学生たちを巻き込んで繰り広げるミニライブ&トークシリーズの第一弾。

この日は、名古屋を拠点に活動している2人のゲストを呼びそれぞれの活動について話を聞きつつ、積極的に参加者の質問に答えるラジオの公開生放送のような双方向のやりとりを行う。

LIVING ROOM A LIVE TALK ①

日程：2024年10月16日（水）

時間：18:00-19:30

（18:00-RAMZAによるオープニングライブあり）

場所：愛知県立芸術大学 音楽学部棟 1F ロビー

参加費：無料

出演：RAMZA

武部敬俊（「LIVERARY」編集部）

安野太郎（聞き手）

主催：愛知県立大学法人 愛知県立芸術大学

企画：愛知県立芸術大学 社会連携センター

協力：デンシオンガク！（愛知県立芸術大学 電子音楽サークル）

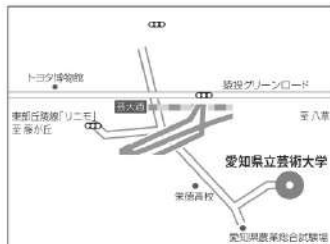
デザイン／アートディレクション：武部敬俊（LIVERARY）

お問い合わせ：愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

TEL：0561-76-2873（平日9：00～17：30）

 愛知県立芸術大学 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114

交通案内：



名古屋方面から
地下鉄東山線「藤が丘」駅下車
東部丘陵線（リニモ）「芸大通」駅下車徒歩約10分

豊田・瀬戸方面から
愛知環状鉄道「八草」駅下車
東部丘陵線（リニモ）「芸大通」駅下車徒歩約10分

公共交通機関のご利用にご協力をお願いいたします。

AICHI-FAM-U.AC.JP

愛知芸大
Fine Arts & Music
芸術講座

A LIVE TALK ①

対話
藝術 生活

登壇者プロフィール：

RAMZA

名古屋在住の作曲家。HIPHOPを出発点とし、取り替え不可能なニューエイジビートを作る。Campanella、C.O.S.A.、呂布カルマ、KID FRESINO、折坂悠太といったラッパー、シンガーのビートを手掛けると共に自身のアルバム『pessim』、『sabo』が広義のオルタナティブシーンで高く評価されてきた。2023年、千種駅そばに「音楽、食事、お酒を楽しめる、新たなセーフティゾーン」をコンセプトとするオルタナティブ・ダイニング「ZEZE」をオープン。

武部敬俊

編集者。1983年生まれ。岐阜市出身。これまでさまざまな編集プロダクション、出版社に勤務し編集ノウハウを学ぶ。本業と並行して取材～デザインまで一人で手掛ける自主制作雑誌『THISIS(NOT)MAGAZINE』を企画・発行。2013年よりWebマガジン『LIVERARY』を仲間たちとともに始動し、名古屋を拠点にカルチャーブックを日々発信・提案し続けている。メディアの編集・運営のほか、イベントの企画制作、ショップのプロデュース、広告物や物販のグラフィックデザイン、アートワークまでを手掛け、広義における編集者として活動中。

安野太郎（聞き手）

作曲家。愛知県立芸術大学准教授。東京生まれ埼玉育ち。2021年から愛知に拠点を移し活動をはじめ。代表作は「ゾンビ音楽」。2019年ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家をつとめ、2023年に愛知県芸術劇場で行った安野太郎のゾンビ音楽『大霊廟 IV - 音楽崩壊-』が、その年のチャレンジングな音楽公演のベストバウトを決める佐治敬三賞（サントリー芸術財団）を受賞した。

SEND YOUR VOICE

